

**甲南大学
甲南大学大学院**

ホームページ <http://www.konan-u.ac.jp>

◎**岡本キャンパス**

〒658-8501 兵庫県神戸市東灘区岡本8-9-1
TEL. (078) 431-4341 (大代表)

◎**西宮キャンパス**

〒663-8204 兵庫県西宮市高松町8-33
TEL. (0798) 63-5741

◎**ポートアイランドキャンパス**

〒650-0047 兵庫県神戸市中央区港島南町7-1-20
TEL. (078) 303-1457

甲南高等学校・中学校

〒659-0096 兵庫県芦屋市山手町31-3
TEL. (0797) 31-0551 (代表)
ホームページ <http://www.konan.ed.jp>

フランス甲南学園トゥレーヌ高等部

<日本事務所>
〒658-8501 兵庫県神戸市東灘区岡本8-9-1
TEL. (078) 431-4341 (大代表)
(078) 453-0115 (直通)
ホームページ <http://www.t-konan.jp>

**ウェブサイトによる
「教育情報」の公開について**

本学では、平成23年4月1日に施行された「学校教育法施行規則等の一部を改正する省令」に伴い、ウェブサイトにて積極的に「教育情報」を公開しています。甲南大学ホームページの「公開情報」をご覧ください。

発行 平成23年6月

この冊子に関するお問い合わせは、
下記までお願いいたします。

〒658-8501 兵庫県神戸市東灘区岡本8-9-1

学校法人甲南学園 総務部総務課

T E L. (078) 435-2305

F A X. (078) 435-2548

e-mail sohmu@adm.konan-u.ac.jp

KONAN

平成22年度 事業報告書

平成22年4月1日から平成23年3月31日まで

個性を力へ。





学校法人甲南学園
理事長 **吉沢 英成**

甲南大学、甲南高等学校・中学校を設置する甲南学園は、大正8(1919)年の旧制甲南中学校の設立にさかのぼります。甲南を支える大きな精神的支柱である創立者の平生鈞三郎先生は、

本校ハ学校教育ノ現状ニ満足セザル有志ノ者共ガ集マツテ、知育偏重ノ弊ヲ避ケ、「人格ノ修養」「健康ノ増進」ヲ第一義トシ、「個性ヲ尊重シテ天賦ノ特性ヲ啓発スベク、知的教育ヲ施サン」トノ主旨ヲ以テ創立イタシマシタ

高等学校第1回卒業式／大正15(1926)年

と述べています。

本学園は、今後も、この気概と品格ある平生精神をもとに、教育・研究の質を高め、本学園の社会的使命を達成することを目指しています。

はじめに

平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

本学園の平成22年度(平成22年4月1日から平成23年3月31日まで)の事業の概況をご報告申し上げます。

平成18年度から平成22年度までの5年間の期間で策定した中期経営計画に基づく事業は、学園創立90周年記念募金事業も含め計画どおり実施されました。なお、学園創立90周年記念募金事業のうち、高等学校・中学校新体育館整備はまだ実施されていませんが、環境が整い次第、実施可能な手筈は整えております。

平成23年度には、大学開学60周年を迎え、中期経営計画により新設した3学部のうちマネジメント創造学部とフロンティアサイエンス学部は3年目、知能情報学部は完成年度を迎えます。

財務面にあつては、帰属収入の大幅な増加が期待できない状況のなか、支出構造の健全・適正化に取組み、教育研究への積極的投資のできる財務基盤を形成し、学園創立100周年に向け、大局観をもって様々な問題に適切に取組むなかで、中期的展望をもって事業を展開してまいります。

皆様におかれましては、今後とも格別のご理解とご支援を賜りますよう切にお願い申し上げます。

甲南学園のあゆみ

個性尊重の理念を掲げて開学。90年余にわたり、その独自の教育を深め、確立してきました。



学園創立者
平生 鈞三郎

平生鈞三郎は、1866年武門に生まれ、東京海上火災保険をはじめとする損害保険業界の近代化に貢献、川崎造船所を再建するなど実業界で広く活躍しました。甲南病院の設立など社会事業にも深く関わり、政治においては、広田内閣の文部大臣として義務教育の年限延長、師範教育の改善を強く提唱しました。教育理念として、「人格の修養と健康の増進を重んじ、個性を尊重し、各人の天賦の特性を伸張させる」を掲げ、甲南中学校、さらに7年制の甲南高等学校を創立しました。

- | | | |
|---------------------------------|------------------------------------|--|
| 1918 財団法人甲南学園
私立甲南中学校設立認可 | 1964 大学院人文科学研究科、
自然科学研究科設置 | 2008 知能情報学部増設 |
| 1919 私立甲南中学校開校 | 1965 大学院社会科学部研究科開設 | 2009 マネジメント創造学部増設
(西宮キャンパス新設) |
| 1923 7年制甲南高等学校開校 | 1991 トゥレーヌ甲南学園
(現フランス甲南学園トゥレーヌ) | 先端生命工学研究所移設・
フロンティアサイエンス学
部・同研究科増設(ポर्टア
イランドキャンパス新設) |
| 1948 新制甲南高等学校に移行 | 2001 理学部を理工学部名称変更 | |
| 1951 甲南大学設置認可、甲南
大学開学、文理学部設置 | 2002 経済学部・経営学部にてEBA総合
コースを開設 | |
| 1952 経済学部増設 | 2003 先端生命工学研究所設置 | |
| 1957 文理学部を文学部と
理学部に分離 | 2004 大学院法学研究科(法科大学院)設置 | |
| 1960 法学部・経営学部増設 | 2006 大学院ビジネス研究科
(会計大学院)増設 | |
| 1963 甲南高等学校・中学校が
岡本から芦屋市に移転 | | |



CONTENTS

学校法人甲南学園／平成22年度事業報告書

はじめに	1	■ 消費収支計算書(学園総括)	■ 消費収支決算(部門別内訳)・構成比率
■ はじめに		■ 主な施設・設備の整備状況(学園全体)	■ 貸借対照表
■ 甲南学園のあゆみ		■ 消費収支決算の推移(学園総括)	■ 財務状況の推移(学園総括)
■ 甲南学園の構成		■ 財務比率の推移(学園総括)	
中期経営計画事業ダイジェスト	3		
I 事業の概要	8	III 法人の概要	24
■ 大学・大学院	8	■ 名称	
■ 高等学校・中学校	14	■ 法人設立の年月日	
■ 法人	15	■ 設置学校	
II 財務の概要	16	■ 役員	
■ 平成22年度決算の概要		■ 土地と建物	
■ 資金収支決算の概要		■ 専任教職員数	
■ 消費収支決算の概要		■ 学生・生徒数	
■ 平成21年度決算・平成22年度予算及 び決算の比較		■ 卒業生累計数	
■ 資金収支計算書(学園総括)		■ 事務組織図	

甲南学園の構成 設置する学校・学部・大学院等(平成23年3月31日現在)

■ 甲南学園

甲南大学・大学院

学部	文学部	■ 日本語日本文学科	■ 英語英米文学科
学科		■ 社会学科	■ 人間科学科
		■ 歴史文化学科	
	理工学部	■ 物理学科	■ 生物学科
		■ 機能分子化学科	
	経済学部	■ 経済学科	
	法学部	■ 法学科	■ EBA総合コース
	経営学部	■ 経営学科	
	知能情報学部	■ 知能情報学科	
	マネジメント創造学部	■ マネジメント創造学科	
	フロンティアサイエンス学部	■ 生命化学科	
大学院	人文科学研究科	修士課程	博士後期課程
		■ 日本語日本文学専攻	■ 日本語日本文学専攻
		■ 英語英米文学専攻	■ 英語英米文学専攻
		■ 応用社会学専攻	■ 応用社会学専攻
		■ 人間科学専攻	■ 人間科学専攻
	自然科学研究科	■ 物理学専攻	■ 物理学専攻
		■ 化学専攻	■ 生命・機能科学専攻
		■ 生物学専攻	■ 情報システム工学専攻
		■ 情報システム工学専攻	■ 情報システム工学専攻
	社会科学部	■ 経済学専攻	■ 経営学専攻
		■ 経営学専攻	■ 経営学専攻
	フロンティアサイエンス研究科	■ 生命化学専攻	■ 生命化学専攻

専門職大学院

- 法学研究科
- 法務専攻(法科大学院)
- ビジネス研究科
- 会計専攻(会計大学院)

センター研究所図書館

- 国際言語文化センター
- キャリアセンター
- 先端生命工学研究所
- 国際交流センター
- フロンティア研究推進機構
- ビジネス・イノベーション研究所
- スポーツ・健康科学教育研究センター
- 図書館
- 情報教育研究センター
- カウンセリングセンター
- 総合研究所
- EBA高等教育研究所
- 広域副専攻センター
- 教職教育センター
- サイバーライブラリ
- 人間科学研究科

甲南高等学校・中学校

甲南学園が設置母体の在外教育機関(フランス)

■ フランス甲南学園トゥレーヌ

高等部(平成25年3月31日に閉校)

Highlight 2010
中期経営計画事業ダイジェスト

the Second Century



平成17年度、安定した財務基盤をベースに「教育の質的向上」を図ることを目的に5ヶ年を対象にした中期経営計画を策定しました。それから、5年間、中期経営計画に基づいた事業を着実に遂行し、展開してきました。

そして、そのなかで出てきた新しい芽をこれまでの伝統のなかで育み、甲南の追求すべき平生の夢「甲南100年の計」を実現していきます。量ではなく教育の質を追うクオリティリーダーとして、甲南の挑戦は続いていきます。

中期経営計画（平成18年度～平成22年度）

大学関係

- 1 「人物教育率先」に基づき、今、大学教育に求められている質に先駆的に挑戦する新学部の開設
 - 知能情報学部開設及び理工学部再編
 - マネジメント創造学部(CUBE)(CUBE西宮)開設
 - 先端生命工学研究所(FIBER)がリードするフロンティアサイエンス学部・フロンティアサイエンス研究科(FIRST)(FAMEポートアイランド)開設
- 2 特色ある甲南教育プログラムの推進
- 3 「甲南90周年栄誉スカラシップ」など奨学金・表彰制度の充実
- 4 独創性溢れる研究・社会貢献・地域連携活動の展開
- 5 学生生活の質を高める環境整備

高等学校・中学校関係

- 1 平生精神をバックボーンとする中高6年一貫(2-2-2、基礎・応用・発展)の教育システムの構築
- 2 日常の学習意欲喚起の体制づくり
- 3 スポーツなど課外活動の活性化による徳・体・知力の増進
- 4 海外提携校との交換留学・交流活動による国際感覚の涵養
- 5 教員組織の教育力の増進

法人関係

- 1 経営基盤整備
 - 中期経営計画遂行のための学園資金計画(新学部の完成年度までを含む)の策定及びその実行
 - 各年度予算策定における長期的ガイドラインの再確認
 - 事務組織体制の活性化
- 2 「個性を力へ。」を標語とする学園の戦略的広報活動の展開
- 3 学園創立90周年記念募金事業(「人物教育率先」創立者平生夙三郎記念教育振興、六甲アイランド総合体育施設整備、高等学校・中学校新体育館整備)の展開

大学

平成20年4月に知能情報学部、平成21年4月にマネジメント創造学部、フロンティアサイエンス学部・同研究科を新設し、新たな学び舎として西宮キャンパスとポートアイランドキャンパスを竣工しました。理工学部は理工系学部の再編に伴い、3学科体制とし、校舎間に分散していた各学科の研究室・実験室等を集中移転、各種実験施設や学習支援施設も設置し施設整備の充実を図りました。各学部では、特色ある新しい教育のスタイルを試みています。また、戦略プロジェクトとして開設された先端生命工学研究所、法科大学院、会計大学院においても、顕著な研究成果や新司法試験56名、公認会計士20名の合格者を輩出する等、実績を積み重ねました。

高等学校・中学校

平成18年度、中学校における1学年1クラス35名、5クラス編成による少人数教育の環境と学習センターの設置等施設の充実を踏まえ、中高6年一貫(2-2-2、基礎・応用・発展)の新教育システムを開始しました。基礎期間では、基本・基礎学力の徹底と良い学習・生活習慣を定着させ、応用・発展期間につなげる様々な教育展開を図りました。英語教育ではクラスを半数に分割したネイティブスピーカーによるオールコミュニケーションを充実させ、高校2年生で約2ヶ月の海外留学を組み込んだグローバル・スタディ・プログラムも設置しました。また、甲南一貫教育を実現するために高大連携の講座や実験を強化し、社会で活躍するOBを招へいたワークショップを実施しました。

法人

平成15年度以降、教育研究への積極的投資ができるよう財務基盤を形成し、中期経営計画を策定しました。同事業の遂行に向けては、財務健全化のためのガイドラインを設定する等、安定した収支構造を確立してきました。あわせて学園創立90周年記念募金事業を展開し、「平生夙三郎記念教育振興事業」「六甲アイランド総合体育施設整備事業」を完遂し、「高等学校・中学校新体育館整備事業」は環境が整い次第、実施可能な手筈を整えました。また、建学の精神と事業計画を社会に広くアピールするため本学の理念を「個性を力へ。」に託し、様々な形で特徴のある広報活動を展開しました。

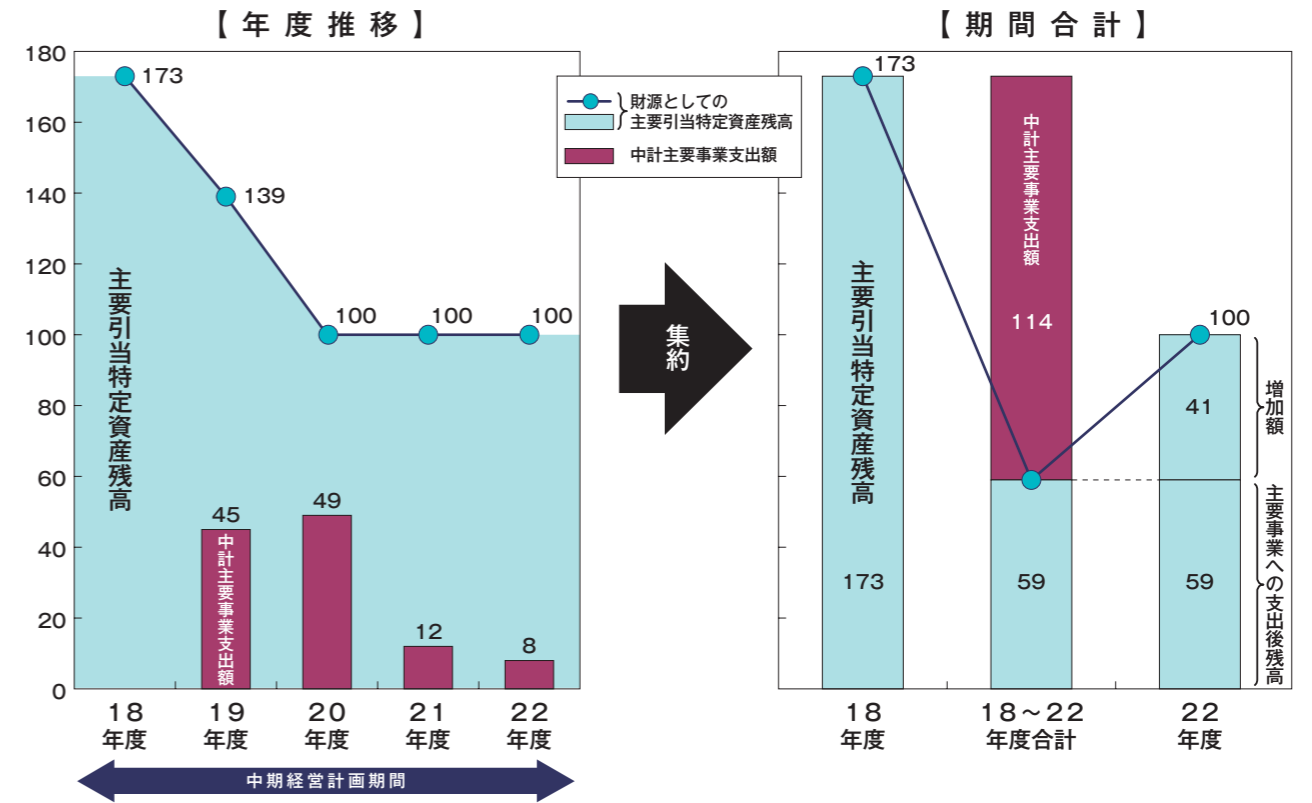
中期経営計画の総括

中期経営計画事業の歩み

	<大学>	<高等学校・中学校>	<法人>
平成18年度	<ul style="list-style-type: none"> 甲南CUBE西宮・新学部構想を発表 知能情報学部の設置準備 キャリア教育「価値創造のできる21世紀型教養人の育成プログラム」が文部科学省の「現代GP」に採択 会計大学院開設 甲南プログレス・プロジェクト(国際交流センター)、地域連携プロジェクト(文学部)が始動 	<ul style="list-style-type: none"> 学習センターの設置 1学年1クラス35名、5クラス制新教育システム導入 「教科シラバス」作成 OBワークショップの開始 基礎期間でオリエンテーション合宿実施 多様な能力を有する生徒を受け入れる入試制度に改革 ル・ジャルダン・アカデミー(アメリカ・ハワイ州)と交流協定締結 大グラウンド、テニスコートに夜間照明設備の設置 	<ul style="list-style-type: none"> 学園創立90周年記念募金の始動 
平成19年度	<ul style="list-style-type: none"> 知能情報学部の設置届出 ポートアイランドキャンパス・新学部構想を発表 マネジメント創造学部[CUBE]、フロンティアサイエンス学部・同研究科[FIRST]の開設準備 「実践的経営シミュレーション演習プログラム」(経営学部)が文部科学省の「現代GP」に採択 制度制定に先立ち、特別措置として「甲南90周年栄誉スカラシップ」を給付 	<ul style="list-style-type: none"> 高大連携出張授業開始(法学部・理工学部情報システム工学科) e-learningシステム運用開始 制度制定に先立ち、特別措置として「甲南90周年オナースカラシップ」を給付 	<ul style="list-style-type: none"> 学園創立90周年記念募金5億円突破 NC東京を東京駅直結のサビアタワーに移転 読売新聞一面広告に本学の理念「個性を力へ。」の標語を掲載、戦略的広報を展開 
平成20年度	<ul style="list-style-type: none"> 知能情報学部の開設 マネジメント創造学部[CUBE]、フロンティアサイエンス学部・同研究科[FIRST]の設置届出 西宮キャンパス、ポートアイランドキャンパス竣工 先端生命工学研究所[FIBER]をポートアイランドキャンパスに移転 甲南平生国際フォーラム第1回「アセアンから見える日本、日本から見えるアセアン その狭間から見えてくるアジアの未来」、第2回「韓国とのより成熟したパートナーシップをめざして 人の交流と人材育成の視点から」開催 「甲南平生GP」の採択 「甲南90周年栄誉スカラシップ」の給付開始 	<ul style="list-style-type: none"> 中学3年に「キャリアリサーチ」を設置 入学前に平生鈺三郎伝記の読書感想文を課し、平生講座を実施 「甲南90周年オナースカラシップ」の給付開始 	<ul style="list-style-type: none"> 六甲アイランド総合体育施設整備事業計画を策定 学園創立90周年記念募金7億円突破
平成21年度	<ul style="list-style-type: none"> マネジメント創造学部[CUBE]、フロンティアサイエンス学部・同研究科[FIRST]開設 理工学部の再編 甲南平生国際フォーラム第3回「インドと日本の新たな関係」、第4回「北京五輪から1年 - スポーツ文化に新しい日中関係を探る」開催 	<ul style="list-style-type: none"> 感想文コンクール実施 「E-Study」フィールドワークを甲南大学で聞き取り調査実施 	<ul style="list-style-type: none"> 学園創立90周年記念式典・祝賀会を挙行 平生鈺三郎日記第一巻を刊行 日本経済新聞マルチプル広告を掲載 
平成22年度	<ul style="list-style-type: none"> 14号館改修、生物学科を集中移転 7号館改修、物理・機能分子化学科、地学研究室を移転 甲南平生国際フォーラム第5回「生物と文化の多様性～アジアからの発信～」開催 「甲南平生GP」の採択 	<ul style="list-style-type: none"> グローバル・スタディー・プログラム開始 	<ul style="list-style-type: none"> 「平生鈺三郎日記」第二巻を刊行 六甲アイランド総合体育施設整備事業完了

中期経営計画主要事業支出額 及び 財源としての主要引当特定資産残高の推移

(単位:億円)



中期経営計画の主要事業は大学教育・研究環境整備充実引当特定資産などの主要な引当特定資産を財源として実施してまいりました。平成18年度から平成22年度までの主要引当特定資産の残高は、当初の173億円からマネジメント創造学部やフロンティアサイエンス学部新設等の主要事業へ114億円支出する一方で、各年度の資金収入超過額からの繰入を行うこと等で、平成22年度末で100億円を確保しております。主要事業への支出後の残高比では41億円増加しており、万全な状態が維持されております。今後も学園財務体質の充実を図り、積極的な事業展開を推進してまいります。

【中期経営計画の主要事業】

- マネジメント創造学部(CUBE)
 - 開設(平成21年度)、完成(平成24年度)
- フロンティアサイエンス学部(FIRST)
 - 開設(平成21年度)、完成(平成24年度)
 - フロンティアサイエンス研究科(FIRST)
 - 開設(平成21年度)、完成(平成23年度)
 - 先端生命工学研究所(FIBER)
 - ポートアイランドキャンパスへの移転(平成20年度)
- 知能情報学部
 - 開設(平成20年度)、完成(平成23年度)
 - 理工学部
 - 再編(平成20～22年度)
- 学園創立90周年記念募金事業
 - ① 「人物教育率先」創立者平生鈺三郎記念教育振興事業(平成18年度～23年度以降継続)
 - ② 六甲アイランド総合体育施設整備事業(平成22年度)
 - ③ 高等学校・中学校新体育館整備事業(平成23年度実施計画検討継続)



学園創立90周年記念事業募金の総括

平成18年9月より開始しました「学園創立90周年記念事業募金」は、平成23年3月31日をもって、募金活動を終了いたしました。今回の募金は、経済状況の悪化により、他私学の募金活動も苦戦するなかでの4年7ヶ月にわたる活動でしたが、同窓会、各地甲南会、卒業生、保護者、及び多くの法人・団体の皆様からの温かいご支援とご協力により、目標額10億円には届かないものの、8.6億円を超えるご芳志を皆様から賜りました。

頂戴しましたご寄付は、募金事業に掲げました以下の3つの事業に有効に活用しております。

①「平生鈺三郎記念教育振興事業」として、平成19年度から平成22年度までに「人物教育率先生拾芳奨学金制度」により、大学の「甲南90周年栄誉スカラシップ」に80名、総額6,970万円、高等学校・中学校の「甲南90周年オナースカラシップ」に顕著な成果を取めた15の団体、59名の個人に総額1,713万円の奨学金を給付しました。

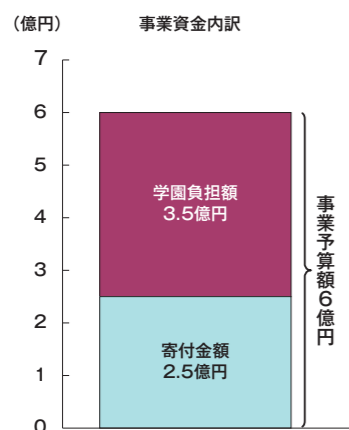
②「六甲アイランド総合体育施設整備事業」については、平成22年4月ナイター設備完備の全天候型体育施設に生まれ変わり、コンセプトである「スポーツの持つ教育力を正課授業及び課外活動において引き出すユニバーシティスタンダードの体育施設」を実現しました。

③「高等学校・中学校新体育館整備事業」については、実施されていませんが、環境が整い次第、実施可能な手筈を整えました。

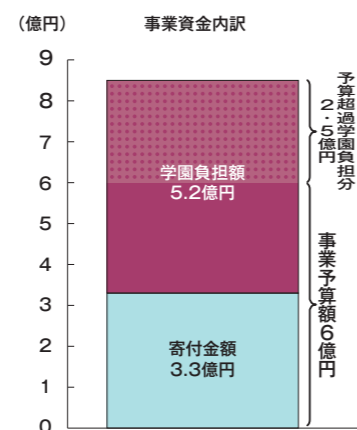
学園創立90周年記念募金事業別配分額

事業予算総額20億円

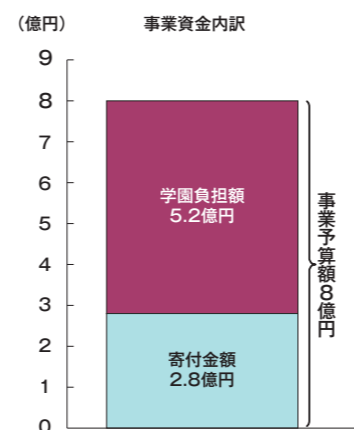
①平生鈺三郎記念教育振興事業
(事業予算額：6億円 4年間給付合計額：8,683万円)



②六甲アイランド総合体育施設整備事業
(事業予算額：6億円 事業執行額：8.5億円)

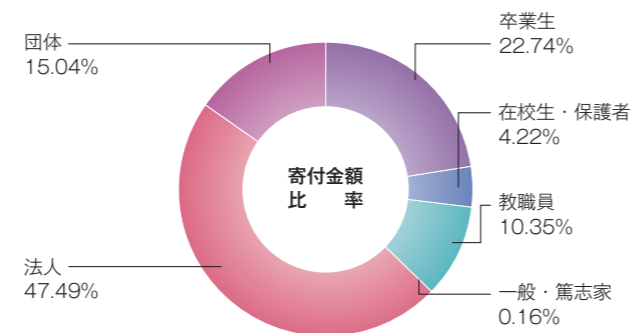
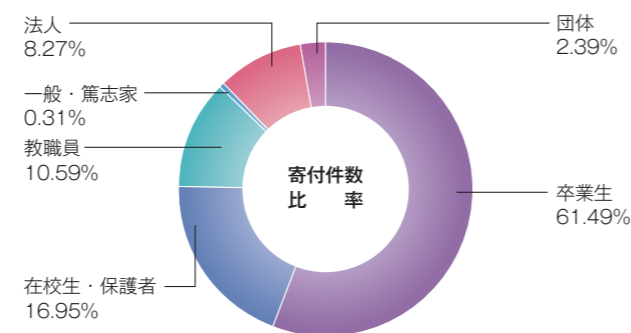


③高等学校・中学校新体育館整備事業
(事業予算額：8億円)



学園創立90周年記念事業募金申込状況 (平成23年3月31日現在)

学校種名	件数	件数 (比率)	金額 (単位：円)	金額 (比率)
卒業生	3,211	61.49%	196,955,690	22.74%
在校生・保護者	885	16.95%	36,579,555	4.22%
教職員	553	10.59%	89,597,700	10.35%
一般・篤志家	16	0.31%	1,378,003	0.16%
法人	432	8.27%	411,271,932	47.49%
団体	125	2.39%	130,207,130	15.04%
合計	5,222	100.00%	865,990,010	100.00%



I 事業の概要

大学・大学院

1 教育

(1) 学位記の授与

● 学士

各学部・学科の特色ある科目配置で編成されたカリキュラムの授業科目を履修し、厳格な成績評価を受けた上で、卒業要件単位を満たした1,889名の学生に、学士の学位が授与されました。

学部・コース	学士 (分野)	学科内訳
文学部	文学 317名	■日本語日本文学科 75 (1)名
	社会学 103名	■英語英米文学科 88名
理工学部	理工学 84名	■社会学科 103名
	理学 144名	■人間科学科 96 (4)名
		■歴史文化学科 58 (2)名
		■物理学科 90 (7)名
経済学部	経済学 380名	■生物学科 48 (6)名
		■機能分子化学科 98 (4)名
法学部	法学 363名	■情報システム工学科 90 (1)名
		■経済学科 380 (11)名
経営学部	経営学 366名	■法学科 361 (14)名
		■経営法学科 2 (2)名
EBA総合コース	経済学 21名	■経営学科 366 (24)名
	経営学 13名	■経済学科 21名
		■経営学科 13名

※()は前期卒業生で内数

● 修士・博士・会計修士・法務博士

大学院学則及び学位規程により、論文審査と最終試験に合格した77名に修士の学位が、5名に博士の学位が授与されました。また、会計大学院を修了した23名に会計修士の学位が、法科大学院を修了した47名に法務博士の学位が授与されました。

修士

研究科	修士 (分野)	専攻内訳
人文科学研究科	文学 13名	■日本語日文学専攻 3名
		■英語英米文学専攻 1名
		■人間科学専攻 9 (2)名
自然科学研究科	理学 35名	■物理学専攻 17名
	工学 12名	■化学専攻 8名
		■生物学専攻 10名
		■情報システム工学専攻 12名
社会科学研究科	経済学 5名	■経済学専攻 5名
	経営学 1名	■経営学専攻 1名
フロンティアサイエンス研究科	理工学 11名	■生命化学専攻 11名

※()は前期修了者で内数

博士 (課程)

研究科	博士 (分野)	専攻内訳
自然科学研究科	理学 1名	■生命・機能科学専攻 1名
社会科学研究科	経営学 1名	■経営学専攻 1名

※()は前期修了者で内数

博士 (論文)

研究科	博士 (分野)
人文科学研究科	文学 2名
	社会学 1名

会計修士 (専門職)

研究科	専攻内訳
ビジネス研究科	会計専攻 23名

法務博士 (専門職)

研究科	専攻内訳
法学研究科	法務専攻 47 (5)名

※()は前期修了者で内数

(2) 法科大学院生が司法試験に合格

平成18年度から始まった新司法試験に、平成22年度は、法学研究科(法科大学院)修了者110名が受験した結果、11名が合格し、平成18年度の新司法試験開始から56名の合格者を輩出しました。

(3) 会計大学院生が公認会計士試験に合格

平成22年度公認会計士試験では、短答式試験に12名の会計大学院生(修了生を含む)が合格しました。さらに、前年度までの短答式試験合格者と合わせて27名が最終(論文式)試験を受験し、在学生3名と修了生8名の計11名が合格しました。

(4) 経済学部「地域活性化システム論」を開講

経済学部では、内閣府や神戸市等の協力を経て「地域活性化システム論」を開講し、平成22年度は「神戸を魅せる」をテーマに、学生ならではのアクションプランを検討・提案しました。また、地域で活躍されている事業者・行政の方々を招いての公開講義、学生の公開プレゼンテーションなどに一般の聴講者が参加し、それぞれの立場を超えた意見を交換しました。

(5) 法学部開設50周年記念シンポジウムの開催

平成22年11月19日、本学甲友会館において「法学部開設50周年記念シンポジウム」を開催しました。シンポジウムには、濱田和生サンスター株式会社代表取締役社長をはじめ、各界から本学部卒業生5名をパネラーに迎え、学生時代の思い出等を語っていただいた後、「法学部一過去、現在、未来」と題したディスカッションを実施しました。

(6) 経営学部開設50周年記念シンポジウムの開催

平成22年11月20日、本学甲友会館において経営学部卒業生とともに経営学部における教育の在り方を考えることをコンセプトに「経営学部開設50周年記念シンポジウム」を開催しました。川越一株式会社ロイヤルホテル前社長の基調講演をはじめ、現役学生によるプレゼンテーション、本学部卒業生7名によるパネル・ディスカッションを実施し、貴重な意見や提言をいただきました。

(7) 特色ある教育への取組

① 甲南平生GPの実施

このプログラムは「平生の教育精神」を生かし、個性と独創性を明確に打ち出した優れた教育プロジェクトに対して、全学的な支援体制を実施するものです。平成22年度は、国際交流を強化するため、「英語集中コースにおける学習・留学支援制度」(国際言語文化センター)を新規に採択し、平成20年度に採択した取組のなかで、国際交流、地域連携に関する事業については今後も大学の取組として継承、発展させていきます。

② キャリア教育の推進

平成18年度に文部科学省の「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」(現代GP)に採択された「価値創造のできる21世紀型教養人の育成プログラム」に基づき、新たに4年次配当科目の「アドバンスト・キャリアデザイン」科目を開講し、1年次から4年次まで学部専門教育科目にキャリア科目を配置し体系的なキャリア教育を実施しました。

③入学前教育の推進

早期に大学への入学が決定した年内入試合格者を対象に、入学時までの学力維持と入学後の大学教育へのスムーズな移行を目的として、e-learningによるメディアリテラシーを全学で、学部学科単位では、大学授業に連動する基礎単元の通信講座、事前指導などを実施しました。

④経営学部「実践的経営シミュレーション演習プログラム」 「ビジネス・リーダー養成プログラム」の展開

平成19年度に文部科学省の「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」(現代GP)に採択された「実践的経営シミュレーション演習プログラム」は、インターネット上で企業経営の模擬体験を行うe-learningとface to faceの指導を組み合わせた教育プログラムで、平成22年度から本格的な運用を開始しました。

また、平成20年度に新設した「ビジネス・リーダー養成プログラム」においては、ビジネス・プロフェッション・コースの13名が兵庫県内7社において本社を中心に3ヶ月間の長期フルタイム・インターンシップに参加しました。またグローバル・ビジネス・コースの5名がドイツのケルンビジネススクールに4ヶ月間交換留学し、英語で専門科目の履修、現地企業訪問等、プログラムの展開を図りました。

(8)自己点検・評価の実施

平成18年度に受けた認証評価に対する改善報告書を財団法人大学基準協会に提出しました。また、自己点検・評価運営委員会においては平成24年度に行う自己点検・評価に向けて、新大学評価システムによる「内部質保証システム」の構築に取り組むため、同協会工藤潤大学評価・研究部長による講演会を実施しました。さらに、各学部から報告された平成22年度「活動目標と方針」についての現状と自己評価を年度末に報告し、第三者評価を行いました。

(9)FD活動の推進

新任教員研修・ガイダンスに加え、体験を通してインタラクティブな講義方法を身につけるワークショップを実施し、新任・中堅教員が一堂で「甲南らしいFD」の在り方について検討しました。また、就業力の育成が大学設置基準に加えられることに伴い、稲垣明兵庫県立伊丹高等学校校長、中西泰輔モロゾフ株式会社能力開発担当課長を講師に招き、働き続けるために必要とされる教養や専門的知識の教授方法について議論しました。

さらに、授業中のマナー向上を目指して、専任教員を対象にアンケート調査を実施し、マナー向上の取組の基礎データを収集しました。

(10)「相互評価に基づく学士課程教育質保証システムの創出—国公立4大学IRネットワーク」の展開

平成21年度文部科学省の「大学教育充実のための戦略的学術連携支援プログラム」に採択された同志社大学、北海道大学、大阪府立大学、本学の国公立4大学での取組は、「4大学IR学生

調査ネットワークの構築と活用」「連携大学間におけるIRネットワークシステムの構築」「IRネットワークを活用した相互評価とベンチマーキング」「IR人材育成のためのワークショップ」を実現することで、教育の質保証を目指すものです。平成22年度は、本学でシンポジウムを開催し、最終目標である全国規模の大学コミュニティ形成に努めました。

※IR(Institutional Research機関研究):大学内の様々な情報を収集して、数値化・可視化し、評価指標として管理し、その分析結果を教育・研究、学生支援、経営等に活用すること。

(11)就業力育成支援事業の取組

平成22年度文部科学省の「大学生の就業力育成支援事業」に本学の取組「人物教育率先に根ざした実践的能力の育成」が採択されました。この取組は、①社会との関わりを念頭においた専門教育の再構築、②専門教育を支え、社会人として必要とされる教養教育の見直し、③骨太な心とからだづくり(ストレスマネジメント能力の育成)の3つの視点から産学連携による教育改革を行うもので、平成22年度は学生一人ひとりをきめ細かくサポートするための学生カルテシステム構築を手がけました。

(12)教職志望学生への支援強化

質の高い教員養成を目的に、基礎学力診断試験や実践力を身に付ける講座を実施するとともに、教職教育センター共同研究・実習室では元高校・中学・小学校長が常駐して教職志望学生・卒業生の相談や指導にあたりました。平成22年度公立学校教員採用試験においては、現役生8名(大学院生1名含む)が合格しました。

在校生・卒業生を含む教員採用選考試験結果

※本学が把握した数のみ記載

平成23年度採用合格者数(公立学校)					
愛知県	1	神戸市	5	広島県・広島市	2
大阪市	4	堺市	1	兵庫県	18
大阪府	3	東京都	1	三重県	2
岡山県	1	名古屋市	1	和歌山県	2
神奈川県	1	奈良県	2	合計	44

(13)国際交流・留学支援の推進

アジア圏の国際交流強化を図るため、新たに韓国の慶熙大学、中国の厦門大学、及びマレーシアのマラヤ大学と協定を締結しました。また、「語学プラス交換留学制度」(前半は語学、後半は専門科目を履修)を設けるとともに、短期留学体験型プログラム「エアスタディーズ」を中国・香港・韓国・ソウルにおいて実施しました。さらに、韓国の漢陽大学職員研修団等を積極的に受入れ、国際交流を推進しました。

留学プログラム等		派遣人数	受入人数
交換留学	全学部対象	11	10
	経営学部(グローバル・ビジネス・コース)対象	5	2
	マネジメント創造学部(特別留学コース)	24	—
	EBA総合コース	2	—
	語学プラス交換留学(語学+専門科目)	2	—
	奨励留学	35	—
	エアスタディーズ(短期留学体験型プログラム)	25	—
	日本語教授法実習(文学部)	9	—
	海外語学講座(夏・春の短期留学)	93	—
	私費外国人留学生	—	3(1名大学院)
	私費外国人研究生	—	7
	甲南大学イヤー・イン・ジャパンプログラム	—	45
	夏期日本語集中講座	—	20
	合計	206	87

※留学先大学は、23校 8ヶ国+台湾

(14)スポーツ強化支援

スポーツ教育力の強化を基本方針とし、戦績向上、指導・支援体制の充実、教育活動との両立をはかるため「強化指定団体制度」及び「指導者招へい支援金制度」の継続実施と、指導者対象の講習会や学生への学修・生活・就職活動に関する支援等、総合的な支援策を実施しました。

2 研究

(1)先端生命工学研究所(FIBER)の研究展開

年度ごとに顕著な研究成果を多く生んでいますが、平成22年度は中国科学院の研究グループとともに、本年度のノーベル物理学賞の受賞対象となった新炭素素材「グラフェン」を利用した、細胞のがん化にかかわるタンパク質を高感度で検出する手法を開発し、その論文がドイツの化学誌「アドバンスド・ファンクショナル・マテリアルズ」電子版に掲載され、従来の方法より短時間で精度も10倍以上に向上させるとしてクオリティ紙に数多く取り上げられました。

(2)学内の各種研究助成による研究支援

学園の教育・研究を推進・充実すべく平生太郎基金、甲南学園教育・研究基金の運用果実等をもって、研究、出版、外国人研究者の招へい等の事業に助成、補助を行いました。

平生太郎基金科学研究奨励助成

申請者	研究課題	研究期間	助成金額
杉本 直己 (フロンティアサイエンス学部教授)	甲南DNAサーベイヤーの構築と革新的核酸機能化技術の開発	平成20年4月1日～平成25年3月31日(5年間) ☆平成20年度からの継続	20,000,000円(平成20年度より5年で総額100,000,000円)
本多 大輔 (理工学部准教授)	海洋の重要な分解者と目されるラビリントラチウムの現存量と構成属の季節的変動の継続的モニタリング	平成22年4月1日～平成23年3月31日	5,400,000円
田中 雅博 (知能情報学部教授)	自己位置推定機能をもつキャンパス内移動ロボットKoRoの開発	※平成22年4月1日～平成26年3月31日(4年間)	6,600,000円
平成22年度助成合計金額			32,000,000円

※但し、助成対象研究期間は平成22年度(平成22年4月1日～平成23年3月31日)とする。
※平生太郎基金科学研究奨励助成・学園創設者平生三郎のご子息、太郎氏のご令室である故平生愛子様から遺贈を受けた財産で、科学研究(医学を含む)を奨励することを目的とした基金。平成6年度より開始された学園の研究奨励助成制度。

平生記念人文・社会科学奨励助成

申請者	研究課題	研究期間	助成金額
出口 晶子 (文学部教授)	拡大する瀬戸内世界—日本海から太平洋への旅路	※平成22年4月1日～平成25年3月31日(3年間)	500,000円
森 剛志 (経済学部准教授)	経済格差拡大がもたらした若年世代の金融意識・行動の影響と持続可能な社会制度設計に関する分析	平成22年4月1日～平成23年3月31日	500,000円
渡辺 顕修 (法科大学院教授)	裁判員裁判の課題と展望	※平成22年4月1日～平成24年3月31日(2年間)	500,000円
平成22年度助成合計金額			1,500,000円

※但し、助成対象研究期間は平成22年度(平成22年4月1日～平成23年3月31日)とする。

※平生記念人文・社会科学奨励助成・平生太郎基金の遺贈者の精神に喚起された学園が学園の資金で人文・社会系分野の研究を奨励する助成制度。

伊藤忠兵衛基金出版助成

申請者	著書名	助成金額
林 満男(経営学部教授)	『国際企業倫理論』	960,000円
早瀬 勝明(法科大学院准教授)	『憲法13条解釈をどうやって客観化するか』	790,000円
伊庭 緑(国際言語文化センター教授)	『Experimental Studies on Prosodic Features in Second Language Acquisition』	1,200,000円
助成合計金額		2,950,000円

※昭和51年、第3代、第5代理事長伊藤忠兵衛の遺言により遺贈を受けた財産で、学術研究の出版を助成することを目的とした基金。その後、昭和57年にその他の特定基金として統合し、甲南学園教育・研究基金となり、同時に国際交流助成制度が整備されました。

国際交流助成

主に外国人研究者の招へい事業に9件、合計610,317円、助成しました。

総合研究所共同研究

人文・社会・自然科学の諸分野にわたる総合的な共同研究を行い、学術の進歩に寄与することを目的として昭和59年に設置された総合研究所の下、共同研究課題4件に対し、合計3,340,000円を助成しました。

(3)私立大学戦略的研究基盤形成支援事業の推進展開

この事業は、大学の経営戦略や研究戦略に基づき、各大学が特色を活かした研究を実施するため、国が重点的かつ総合的な支援を行う事業で、平成22年度に新たに採択された1件とこれまでに選定を受けた2件のプロジェクトを推進展開しています。

テーマ	期間
「関西地域発イノベーション・プラットフォームの構築」(ビジネス・イノベーション研究所)	平成22年度から3年間
「分子クラウド環境を活用した遺伝子発現系で活躍する機能性分子のデザイン・開発システムの構築」(先端生命工学研究所)	平成21年度から5年間
「心の危機の見極めと実践的ネットワークの創造」(人間科学研究所)	平成20年度から5年間

(4)研究支援体制の強化

文部科学省、日本学術振興会による平成22年度科学研究費補助金に、本学から68件(新規18件、継続50件)が採択されました。

(5)兵庫海外研究ネットワーク(HORN)事業による共同研究

パリ第三大学ミュリエル・デトリ准教授を1ヶ月間招へいし、多文化共生に関する共同研究(共同研究者:国際言語文化センター教授中村典子)を行い、国際シンポジウム「アジア圏の人々にとっての多文化共生社会の現状と未来」を開催しました。

(6)知的財産管理体制の充実

「甲南大学発明規程」に基づき知的財産の管理・活用を行うとともに、知的財産への理解と関心を深めることを目的として、教職員、学生等向けに知的財産セミナーを開催しました。

(7)研究者情報の公開

本学の有する研究成果(知的資産)及び人材を学外に広く公開することを目的に、ホームページの研究者情報の更新を行いました。また、教員の研究成果をまとめた人文系・社会系・理工系それぞれの研究シーズ集について、研究内容などを更新し、ホームページ等を通じて、情報を発信しました。

3 学生支援活動

(1) 卒業延期制度の制定

ここ数年の経済環境の激変に伴い、就職先が内定しない学生が卒業を見合わせるため数単位を残して留年を選択する事態に至っていることから、卒業要件を満たす学部学生が、引き続き在学を希望する場合には、1年間に限り卒業を延期して在学することを認める卒業延期制度を臨時的に制定しました。

(2) 奨学金・表彰制度の充実

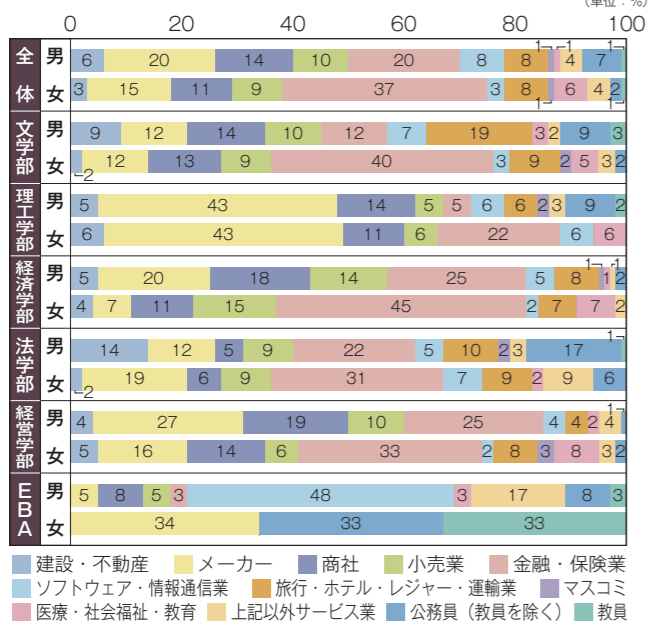
学生のより高い学習意欲を引き出すために、目的別の各種奨学金の給付、表彰、授業料の免除等を実施しました。また、家計急変等にかかる学生からの緊急の申し出に対して、甲南大学特別奨励奨学金を適用するために関連諸規程を改正しました。

(3) キャリア形成・進路支援体制の強化

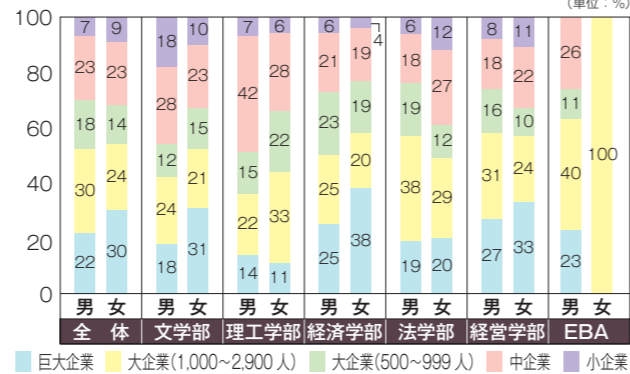
厳しい就職環境下、学生の不安感を払拭し、進路満足度を高めるため、首都圏での就職活動を支援する「企業研究講座 in TOKYO」、「夏休み就活セミナー in TOKYO」、若手卒業生を招いての「OB・OG懇談会」、理工系学生等の多様な学生に応える各キャリア支援講座や就職希望者の多い業界に特化した「業界研究シリーズ」に加え、筆記試験対策や面接試験対策を見直し、体系立てて実施しました。また、父母対象に「父母就職説明会」等を開催、さらに未内定者には、就職活動意欲維持に向けた「就職の寺子屋」等を実施し精神的なケアも含め、手厚いフォローアップを図りました。

また、平成21年度に文部科学省の「大学教育・学生支援推進事業」学生支援推進プログラムに採択された「ニート回避と未内定者削減のための就職相談・情報提供体制の充実」の2年目の取組として、キャリアカウンセラーの増員、キャリアセンターの開室時間の2時間延長等、相談体制を強化し、満足度の高い就職先獲得を目指した取組を行いました。平成22年度の就職率は95.0%となりました。

業種別就職状況



規模別就職状況



(4) 学生生活の活性化

① 課外活動等の展開

学生が主体となる活動を促進させ、徳を備え活力に満ちた学生を育成・支援するため、学長表彰、学生部長特別表彰、父母の会課外活動表彰(金甲賞)、同窓会課外活動表彰(会長賞・奨励賞)等の各種表彰を行いました。

また、課外活動はもとより、学外においても緊急時に応急処置ができる学生を1人でも多く養成するための市民救命士の講習会を開催するとともに、岡本地区の美化促進のため、地域が協力して実施する岡本一斉クリーン作戦及びタバコのポイ捨て禁止、ゴミの分別の啓発活動にも取組みました。

② ピアサポート活動の開始

大学生活に不自由を感じている学生に対して友人・上級生がボランティアとして支援するピアサポート活動を開始しました。大学が行った研修を受けた学生に研修修了書を交付して、ピアサポーターとして新入生対象の案内ブース等で活動を行いました。

③ 「父母の会・学生GP」の共催

平成21年度に引き続き、甲南大学父母の会と本学の共催で、「父母の会・学生GP」として、学生と教職員の協力を前提に、広く学生の意欲を喚起する取組を募集し、厳正な審査の結果、5件の取組が採択されました。

(5) 父母対象の教育懇談会の実施

学生の父母に対し、本学の教育理念やキャンパスライフに関する生活情報の提供のため、本学で教育懇談会を5月15日に行いました。また、地方在住の父母を対象として、10月17日に名古屋市及び福岡市で、11月3日に広島市及び高松市で開催しました。

4 社会連携・貢献活動

(1) 高大等連携の推進

高大連携聴講生制度に基づき、兵庫県、神戸市及び協定を締結した高校からの生徒を指定の授業に受け入れました。また、指定校推薦依頼校を対象とする教育交流会を開催し、高校の教員に学長講演、入試制度、就職状況の説明や授業公開を行い、各学部においては、出張講義、授業体験、遠隔授業等を実施しました。

フロンティアサイエンス学部(FIRST)においては、独立行政法人科学技術振興機構の支援事業である「サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト(SPP)」に連携事業として3件、同学部の独自事業として、理科担当の高等学校教員を対象にした「理科教員向け先端科学実験講座」を実施しました。

※サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト(SPP)…高等学校等と大学が連携し、研究者等を講師とする科学技術、理科に関する観察、実験、実習等の体験的・問題解決的な活動を中心とした学習活動を行うことによって、生徒の科学技術や理科に対する興味・関心と知的探究心を育成することを目的としている事業。

(2) 甲南女子大学との単位互換、西宮市大学交流協議会「共通単位講座」への参加

互いの大学にない科目を相互補完することで、特色ある教育を充実させることを目的として、平成21年度より甲南女子大学と単位互換を実施しており、平成22年度は本学から3名が、甲南女子大学から54名の学生が単位を互換しました。

また、西宮市大学交流協議会への加盟に伴い、平成21年度より学生の幅広い視野の育成と学習意欲の向上を目的とした「共通単位講座」へ参加し、平成22年度は本学から24名の学生が受講しました。

※西宮市大学交流協議会…さまざまな交流事業、調査研究事業、情報発信事業等を行い、大学の教育研究のさらなる向上と、併せて、その成果を地域社会や産業界へ還元することを目的とし、西宮にある各大学・短期大学と西宮商工会議所、西宮市をもって構成されています。

(3) 産官学連携の推進

フロンティア研究推進機構において、産官学連携活動を積極的に推進するために、受託研究、共同研究等の支援を行いました。また、本学が有する知的財産の社会での活用を推進するため、京阪神地区及び東京地区の各種展示会(イノベーション・ジャパン2010(東京)ほか)等に出席するとともに、新技術説明会(「ひょうご神戸産学官アライアンス」及び「関西8私大」)で発表しました。

(4) 御影クラッセとの地域連携

地域社会の発展と教育・文化の振興へ寄与することを目的に、平成22年5月に阪神御影駅前の商業施設「御影クラッセ(住商アーバン開発株式会社)」と「地域連携の協力に関する協定」を締結し、御影クラッセにおいて学生のクラブ団体によるイベントや本学教員による講演会を開催しました。

(5) 日本学術振興会等の各公募事業に採択

本学のプログラムが日本学術振興会、科学技術振興機構の公募する各事業に採択され、科学研究費補助金での研究成果や独自の取組みの実績を中学生・高校生、地域の児童に広く還元しました。

独立行政法人 日本学術振興会 研究成果の社会還元・普及事業「ひらめき☆ときめきサイエンス KAKENHI」

テーマ	学部・研究所
「最新ノーベル賞堪能ツアー - 蛍光タンパク質と光るDNA実験」	先端生命工学研究所
「ロボットを『作る』・『見る』・『動かす』 - ii Robot Worldへの招待」	知能情報学部
「みんなで考える、知的財産、ニュービジネス」	マネジメント創造学部

独立行政法人 科学技術振興機構 地域の科学舎推進事業「地域活動支援」

テーマ	学部
科学とあそび! 2010	知能情報学部

(6) 大学間連携の推進

本学が加盟する兵庫県下の大学相互の連携を深め、教育・研究活動の向上と地域社会の振興と発展に寄与する「大学コンソーシアムひょうご神戸」の学生交流事業を担当し、学生独自の視点から兵庫を活性化するアイデア・企画を、事業計画の形で募集し選定する「学生プロジェクトプラン・コンペ2010」を開催しました。また、8月に「農村ボランティア」、10月に「兵庫みらいフォーラム」に参加するなど兵庫県とも連携を密にし、学生交流を推進しました。

(7) 生涯学習の支援

社会人講座、各種シンポジウム、公開講座等を通じて、生涯学習の機会を社会・地域に提供しました。

主な講演会・シンポジウム等

- 公開講座(広報部主催)
 - 春期:「老化を防ごう」～アンチ・エイジング最前線～
 - 夏期:パソコン教室「自分のブログをつくってみよう」
 - 秋期:「やさしい最先端の経済学」
 - 冬期:バドミントン教室「ブレスメント技術を磨く!」
- 文学部・コミュニティ・デザインセンター共催
 - 東灘アートマンス協賛イベント キャンパスJAZZライブ 第6回地域連携フォーラム 「大学と地域の新しいつながりを求めて」
- 文学部
 - ギャラリー・バンセ大学企画展
 - 「花の形式」(浅野 仁美展)
 - 【関連企画】10/27演奏パフォーマンス・アーティストトーク 「Ground」(日浅 優展)
 - 【関連企画】11/25 ライブパフォーマンス・アーティストトーク
 - ギャラリー・バンセ博物館実習展
 - 「子どもにかえるとき」
 - 公開講義(地域連携講座科目「阪神文化論Ⅱ」)朝日新聞社との連携講座
 - 公開講義(地域連携講座科目「NPO/NGO論」)
 - ①「若者の就労とNPO」
 - ②「NPOで働く」
 - ③「NPO/NGOで働くということ～六甲山での取り組みから」
 - 公開講義(地域連携講座科目「観光文明学Ⅱ」)「琵琶湖周航・観光の旅」
 - 公開講義(学芸員養成課程)
 - 「海事博物館資料の電子化と利用方法」
 - 「後世へ遺し伝えるために-記録資料の保存修復」
 - 「はじめての展覧会!～新米アートコーディネーター奮闘記～」
- 経済学部
 - 「現代日本経済(日本の資本市場)」※野村證券株式会社寄付講座
 - 地域活性化システム論「神戸を魅せる～まち・海・山からのアプローチ～」
 - Joint Lecture「経済学と経済学のあいだ」
- フロンティアサイエンス学部(FIRST)・先端生命工学研究所(FIBER)共催
 - 講演会及びシンポジウム「Science Live Ticket」
 - 産学連携事業「産学連携サロン」Part2・3
- 国際言語文化センター
 - 社会人講習会(言語講座) 英語・独語・仏語・中国語・韓国語(レベル別)
 - 夏期社会人講座「異文化理解:生き方・人生の楽しみ方を探る」

●人間科学研究所

- 公開研究会
 - 第53回芸術療法と芸術学の対話 第2回 アートセラピーにおける表現と癒し
 - 第55回「イクメン」の向こう側へー臨床心理士による父親への育児支援の可能性ー
 - 第57回裁きと和解ー戦時性暴力の被害・加害の証言からー
- 第10回公開シンポジウム
 - 父親の子育て・母親の子育てー自立する親と子のための健全な分離とはー

●総合研究所

- 春期公開講演会「脳における記憶のしくみ」
- 秋期公開講演会「基礎から学ぶ金融政策」

●先端生命工学研究所(FIBER)

- 公開講演会「FIBER International Lectures in NANO BIO NOW Series」
- FIBER Forum 2010

5 環境整備

(1) 岡本キャンパス西・北校地の再開発

理工学部再編に伴い、岡本キャンパス西・北校地の施設を再開発しました。14号館には生物学科が集中移転、7号館には物理学科、機能分子化学科、地学研究室が集約されたほか、最新の実験装置も導入され、教育研究環境の向上が図られました。

(2) 防災センターの建設

岡本キャンパスの防災力、セキュリティを高めるため、キャンパス中央に位置する図書館西側に防災センターを建設しました。断水時に水槽水を活用できるシステムや自家発電設備等を備え、有事には学園の災害対策本部が設置されるほか、平時にはキャンパス施設を最適に維持管理するための拠点となります。

(3) 快適・安全なキャンパス構築の推進

キャンパスのバリアフリー化に継続的に取り組み、平成22年度

は10号館1階トイレのバリアフリー改修、1号館及び2号館エントランスの自動ドア化を行いました。また、防災センター整備に合わせ、9号館西側に駐車場を新設、西門を拡幅し、大型車両の構内進入を可能とするとともに、入構車両の規制を強化しました。

(4) 情報インフラ整備の推進

理工学部棟再編工事、11号館(会計大学院)自習室改修に伴い、ネットワークを敷設しました。また、六甲アイランド総合体育施設内の無線LAN設備を増強しました。

6 学生募集・入学試験に係る各種活動

(1) 兵庫県立舞子高等学校と協定校推薦入学制度の協定を締結

神戸市立六甲アイランド高等学校に続き、兵庫県立舞子高等学校と「推薦入学制度に関する協定」を締結しました。同協定は、高大連携活動を通じて、両校の教育理念・教育方針について、相互理解のもと、本学に入学意欲の高い生徒を推薦入学者として一定数・一定期間継続して受け入れることを目的としたもので、全学的な協定校推薦入学制度として、平成24年度入学予定者から、毎年度一定数の生徒を本学に受け入れます。

(2) 入学試験状況

平成23年2月から3月にかけて実施した入学試験の志願者総数は21,639名(前年比2,246名(9%)減)で、3年連続の減少となりました。内訳は、一般入試志願者数が1,434名減の12,650名(前年比90%)、センター試験利用入学試験志願者数が812名減の8,989名(前年比92%)となっています。指定校推薦入学やAO入学試験をはじめとする、その他の入学試験全体の志願者数は30名減少し、1,054名(前年比97%)となりました。

大学院においては、修士課程・博士後期課程で志願者数126名(前年比50名減)で88名が合格、法科大学院では志願者数193名(前年比10名減)で96名が合格、会計大学院では志願者数38名(前年比11名減)で32名が合格しました。

【入学試験状況】

学部・学科	一般入試				センター試験利用入試				その他の入試				
	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	
文学部	日本語日本文学科	642	626	149	52	330	324	64	6	32	32	32	31
	英語英米文学科	560	554	196	63	449	446	146	19	34	32	32	32
	社会学科	564	555	163	59	428	417	121	24	24	24	24	24
	人間科学科	744	722	166	53	437	431	87	10	47	44	44	43
	歴史文化学科	447	436	140	49	356	352	96	15	19	19	19	19
小計	2,957	2,893	814	276	2,000	1,970	514	74	156	151	151	149	
理工学部	物理学科	432	418	150	24	180	175	61	7	24	23	21	20
	生物学科	504	492	174	33	340	333	25	1	15	15	15	15
	機能分子化学科	521	507	137	29	258	251	69	8	34	33	29	29
	小計	1,457	1,417	461	86	778	759	155	16	73	71	65	64
経済学部	2,185	2,138	600	189	1,510	1,482	513	59	165	165	153	148	
法学部	1,872	1,828	634	242	1,204	1,185	290	31	116	115	113	111	
経営学部	2,593	2,550	482	153	2,309	2,276	384	50	215	212	184	184	
知能情報学部	773	752	197	70	318	313	51	7	56	55	49	48	
マネジメント創造学部	584	575	183	68	532	523	156	15	261	259	110	103	
フロンティアサイエンス学部	229	224	76	19	338	325	118	22	12	12	7	7	
合計	12,650	12,377	3,447	1,103	8,989	8,833	2,181	274	1,054	1,040	832	814	

※ その他の入試…マネジメント創造学部公募制推薦入学試験、AO入学試験、スポーツ能力に優れた者の推薦入学試験、経営学部高等学校商業科推薦入学試験・理工学部高等学校工業科推薦入学試験、指定校推薦入学、系列校推薦入学、協定校推薦入学、帰国子女入学試験、社会人入学試験。

大学院【修士課程】	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	
人文科学研究科	日本語日本文学専攻	2	2	2	2
	英語英米文学専攻	2	2	2	2
	応用社会学専攻	1	1	1	1
	人間科学専攻	28	26	13	11
小計	33	31	18	16	
自然科学研究科	物理学専攻	21	19	17	15
	化学専攻	17	17	11	10
	生物学専攻	12	12	10	10
	情報システム工学専攻	10	10	10	10
小計	60	58	48	45	
社会科学研究科	経済学専攻	13	13	6	6
	経営学専攻	4	4	3	2
	小計	17	17	9	8
フロンティアサイエンス研究科	生命化学専攻	6	6	4	3
合計	116	112	79	72	

※ 修士課程…一般入学試験、社会人入学試験、AO入学試験、外国人留学生入学試験、学内推薦入学試験、学内選考入学試験。

大学院【博士後期課程】	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	
人文科学研究科	日本語日本文学専攻	0	0	0	0
	英語英米文学専攻	0	0	0	0
	応用社会学専攻	0	0	0	0
	人間科学専攻	0	0	0	0
小計	0	0	0	0	
自然科学研究科	物理学専攻	1	1	1	1
	生命・機能科学専攻	2	2	2	2
	情報システム工学専攻	1	1	1	1
	小計	4	4	4	4
社会科学研究科	経営学専攻	3	3	2	2
フロンティアサイエンス研究科	生命化学専攻	3	3	3	3
合計	10	10	9	9	

※ 博士後期課程…一般入学試験、社会人入学試験、外国人留学生入学試験。

大学院【専門職課程】	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
法科大学院(法学研究科法務専攻)	193	164	96	21
会計大学院(ビジネス研究科会計専攻)	38	34	32	29
合計	231	198	128	50

※ 会計大学院…一般入学試験、AO入学試験、公募制推薦入学試験、指定校推薦入学試験、学内推薦入学試験。

高等学校・中学校

1 教育

(1) 中高6年一貫教育システムの構築

2年ずつ3つのステージ(基礎・応用・発展)に分けた新教育システムが5年目を迎え、文Iコースの特徴付けの一環として「グローバル・スタディ・プログラム」が始まりました。このプログラムを選択している生徒のうち13名の高校2年生が2ヶ月間オーストラリア、カナダ、イギリスへの海外留学を行い、実践的英語力のみならず、文化の多様性を学び、さらに独立心を養うことができました。言語リテラシーの養成強化を目指して「日本語検定」や「英語検定」ならびに「英語コミュニケーション能力テスト」などを受験し、さらに読書感想文コンクールを実施することにより英語や日本語の運用能力の向上に努めました。

また、中学1~2年の基礎期間を中心とした「計算力テスト」「漢字テスト」「英単語テスト」などを継続することにより基本的な学習習慣の確立を行いました。

中高6年間を通したネイティブ教員によるクラスを半数に分割した「オーラルコミュニケーション」科目を開講し、英語を使う力の涵養に努め、その集大成としてディベートを実施しました。

(2) 甲南一貫教育の実現

- 甲南の一貫教育として次の事業を実施しました。
- ① 社会で活躍するOBを招へいし、キャリア教育の一環としてのOBワークショップの実施。
 - ② 高大連携として、甲南大学の知能情報学部、法学部やフロンティアサイエンス学部の教員による出張講義や特別実験の実施。

- ③ 自ら学ぶ姿勢を身につけるために、基礎期間に行う「自学自修」「情報活用」、高校生が行うフィールドワークを通じての調査研究及びプレゼンテーション能力を養成する「E-Study」の実施。
- ④ 学校や学年を超えた学友たちとのコミュニケーションを通して豊かな人物教育・人脈形成を行うための甲南小学校、甲南女子中等高等学校との甲南三学園学習成果発表会や三学園環境教育の実施。
- ⑤ 甲南の教育方針を理解するために創立者平生鈺三郎のマンガ本や伝記の読書、平生講座の実施や集会における平生精神の喚起。

(3) 伝統に根ざすイノベーションを実現する体制

教員組織を活性化し、資質や技量の向上を目指して、「教育理論とその実践」に関して外部講師による教員研修を実施しました。また、これからの甲南教育の充実を図るために、校長諮問機関であるプロジェクトチームを組織し、教育内容の研究を行っています。さらに広報戦略の強化を図るために入試広報のHPを外注し充実させました。

2 学習活動・学校生活支援活動

特に中学時代の基礎期間における学力向上を重視し、日常の学習意欲喚起の体制を構築して、学力の向上・定着を図るために、以下のことを行いました。①7限授業の実施(月・木)。②学習センターにおいて、放課後の専任教員及び教員志望の甲南大学生による個別指導を行い、延べ1,000名を超える生徒の学習支援。③メールマガジンやe-learningを活用することで学校と家庭との連携の強化。④4校の海外協定校との長期交換留学や短

期語学研修の実施。⑤クラブ間交流としてプラスアンサンプル部のハワイの姉妹校への交流の実施。

3 環境整備

高校棟校舎屋上防水改修、大会議室AV化、地デジ放送対応工事及び地デジ対応TV入替、各種消防設備更新、ピオトープ鉄橋補強、教室・廊下の補強補修、廊下タイルカーペット張替等、快適で安全な環境整備と課外活動施設等の整備を実施しました。

4 進路状況

それぞれのコースの特性を活かし、一人ひとりの適性や個性に応じて自己の進路を確立しました。その結果、内部推薦により約6割が甲南大学へ進学し、他の約4割は国公立大学や首都圏・関西等の私立大学に進学しました。

5 生徒募集・入学試験に係る活動

高校入試はⅠ期(専願)の推薦入試と新たに本年度から導入したⅡ期(併願)の入学試験において、昨年に比べ成果が見られました。一方、中学入試は3年続けて受験者が減少しました。特にⅢ期入試が厳しい状況であり、次年度以降の入試改革のみならず教育システムの改革推進も大きな課題であります。

高等学校

募集形態		志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	競争率
普通コース	Ⅰ期(専願)	19	19	17	17	1.1
	Ⅱ期(専願・併願)	12	12	7	6	1.7

中学校

募集形態		志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	競争率
Ⅰ期入試	a方式、b方式	185	173	106	101	1.6
Ⅱ期入試		310	169	98	34	1.7
Ⅲ期入試		119	42	18	18	2.3
甲南小学校		27	27	27	27	—
合計		641	411	249	180	—

備考：Ⅱ期入試欠席者141名のうち、Ⅰ期合格者は95名

法人

1 管理運営・財政

(1) 避難訓練の実施

講義時間中に地震による火災が発生したとの想定に基づく避難訓練を大学の各キャンパス、高等学校・中学校で継続的に取り組み、平成22年度は訓練実施日時の予告を教職員に対してのみ行う形で実施し、学生・生徒、教職員約2,420名が参加しました。

(2) コスト削減の実施及び省エネルギーの推進

① 省エネルギーへの取組

理事長を委員長とする「甲南学園省エネルギー委員会」を設置し、法人全体で温室効果ガス排出量削減に取組む体制を整えました。平成22年度は学園内の冷蔵庫設置状況を調査し、無駄な電力使用を削減するための方策を検討しました。

② 電子入札購買システムの活用

調達コストの更なる削減を目的として、電子入札購買システムを導入し、当初予算額からのコスト削減を図りました。

(3) ワーク・ライフ・バランスの推進

「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律」(育児・介護休業法)の改正(平成22年6月30日施行)に伴い、「甲南学園就業規則」「甲南学園介護休暇規程」「甲南学園育児休業規程」「甲南学園看護休暇規程」を改正し、仕事と育児、介護の両立に向けた就労環境を整備しました。

2 広報活動・卒業生との連携事業等

● 広報活動

平成21年度から継続する戦略的広報活動として、学園が有する知的情報を外部に発信し、社会と学園とのコミュニケーションを密にするとともに、スポーツ・文化・ボランティア活動への協賛等に注力し、「甲南」の社会的なブランド力を強化しました。また、学内に対しては、激しく変化する社会のコンセンサスの情報伝達を図りました。

● オール甲南の集いを開催

甲南ファミリーが交流を深める「オール甲南の集い」を平成22年5月23日に開催し、本学卒業生の柿木道子氏を招き、「くいだおれ女将のしなやかな下根性」と題した講演会、美術部による似顔絵・アクセサリーづくり、児童福祉研究会によるぬりえ・貯金箱づくり、卒業生によるバルーンアート、「親子でつろう工作教室」といった新しい企画を催すとともに、卒業生と現役生によるジョイントコンサート「オール甲南夢舞台」、卒業生が経営する企業や商店の物産を販売する模擬店、物産展などを催し、嵐のような風雨にもかかわらず約1,800名の参加がありました。

3 『平生鈺三郎日記』第二巻を刊行

学園創立90周年の記念事業として、本学園の創設者平生鈺三郎が永眠するまでの32年に及ぶ日記を翻刻し、全17巻に纏め刊行します。平成22年度は、平成21年度に刊行した第一巻に続き、第二巻を刊行しました。

4 フランス甲南学園トゥレーヌの教育の質向上と閉校への取組

フランス甲南学園トゥレーヌの平成24年度末閉校に向け、教育水準の維持、向上を図るべく、食堂施設を改修するとともに管理運営を強化しました。

I 平成22年度決算の概要

平成22年度は平成18年度から5年間の予定で実施してきた中期経営計画の最終年度にあたります。今年度は、学園創立90周年記念募金事業として「甲南90周年栄誉スカラシップ(大学)」「甲南90周年オナースカラシップ(高等学校・中学校)」の給付を継続するとともに、平成22年4月には「六甲アイランド総合体育施設」を竣工しました。また理工学部再編事業の一環として、7号館・14号館の改修を行い、物理学科、機能分子化学科、生物学科及び地学研究室の平成23年度以降の教育研究環境を整備しました。さらに平成23年3月には岡本キャンパスに防災センターを建設し、防災機能の向上及び集約化を実現しました。

以下に、資金収支決算及び消費収支決算の内容についてご報告いたします。

I 資金収支決算の概要

資金収入は、予算対比で見ますと、補助金収入、事業収入、雑収入等が下回ったものの、手数料収入、寄付金収入、資産運用収入、その他の収入が上回ったため、予算を1億73百万円上回る189億06百万円となりました。一方、資金支出は、設備関係支出、資産運用支出等が予算を上回ったものの、教育研究経費支出、管理経費支出、施設関係支出が、本年度も引き続き調達方法の見直し等様々な工夫を実行したことにより予算を下回りました。最終的に、大学将来計画準備引当特定資産に5億円、大学教育・研究環境整備充実引当特定資産に3億円を積み立て、結果として予算を6億46百万円上回る187億22百万円となりました。その結果、資金収入超過額は1億84百万円となりました。

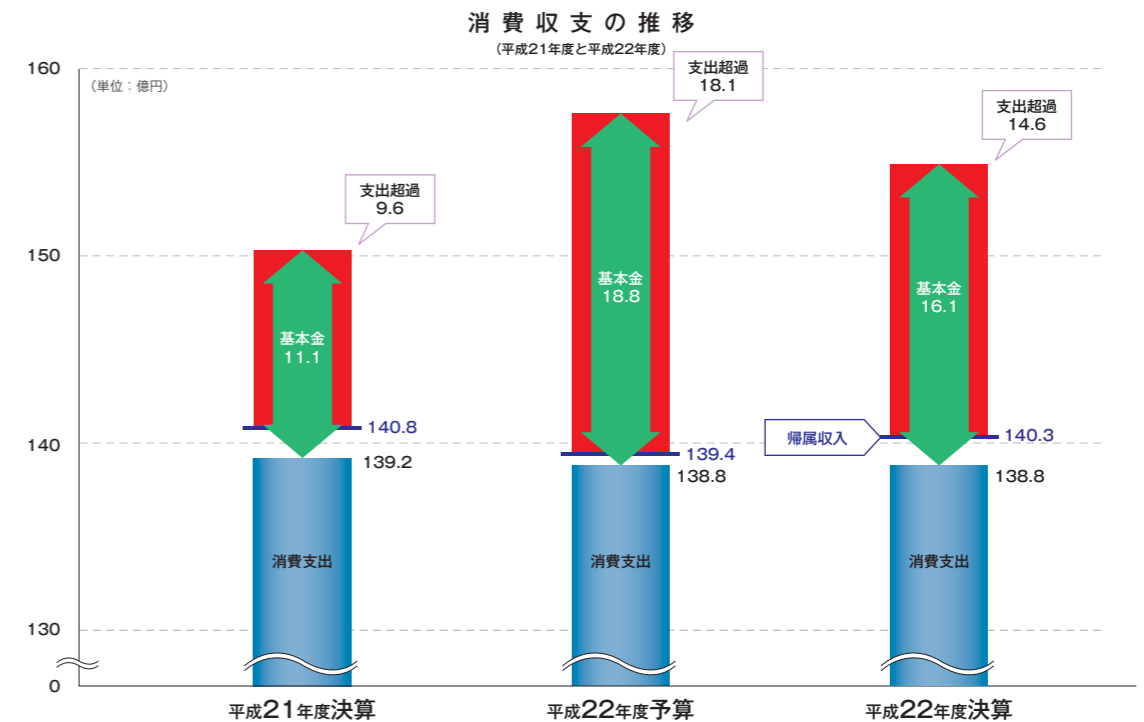
I 消費収支決算の概要

学園全体の帰属収入は140億26百万円、基本金組入額は16億07百万円。帰属収入から基本金組入額を除いた消費収入は124億19百万円。一方、消費支出は138億77百万円となり、その結果、帰属収支差額は1億49百万円の収入超過、消費収支差額は14億58百万円の支出超過となりました。

予算対比で見ますと、帰属収入は手数料、寄付金、資産運用収入が増加したことに伴い、82百万円の増収(予算139億44百万円に対して決算は140億26百万円)となり、基本金組入額は2億70百万円の減少(予算18億77百万円に対して決算は16億07百万円)となりました。一方、消費支出は資産処分差額、徴収不能引当金繰入額を計上しましたが、人件費、教育研究経費、管理経費が減少したため、3百万円の減少(予算138億80百万円に対して138億77百万円)となりました。その結果、消費支出超過額は予算より3億55百万円減少し、14億58百万円となりました。

他方、前年度決算と比較しますと、帰属収入は平成21年度に開設したマネジメント創造学部、フロンティアサイエンス学部の学年進行による学生生徒等納付金の増収があったものの、手数料、寄付金、補助金、雑収入が減少したことに伴い、50百万円の減収(前年度の帰属収入は140億76百万円)。基本金組入額は理工学部の再編に伴う7号館・14号館の改修、また岡本キャンパスの防災力・セキュリティの向上を目的として防災センターを建設したため、前年度より4億95百万円増加の16億07百万円(前年度は11億12百万円)となりました。一方、消費支出は人件費、管理経費及び資産処分差額の増加があったものの、新学部開設に伴う初期整備の完了による教育研究経費の減少、借入金の繰上償還、リース物件の買取り等支出構造の見直しに取組んだ結果、46百万円の支出減(前年度の消費支出は139億23百万円)となりました。

I 平成21年度決算・平成22年度予算及び決算の比較

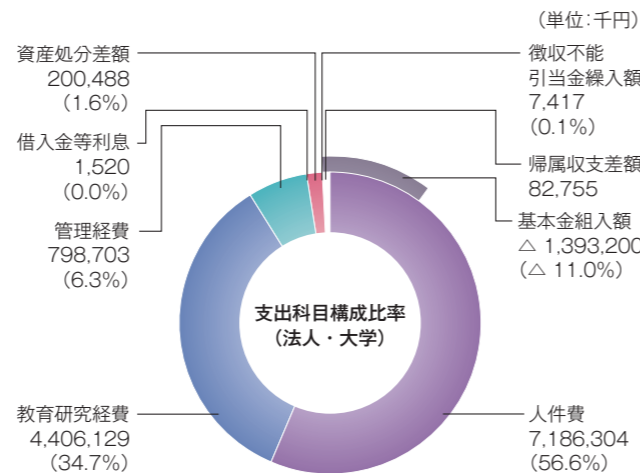
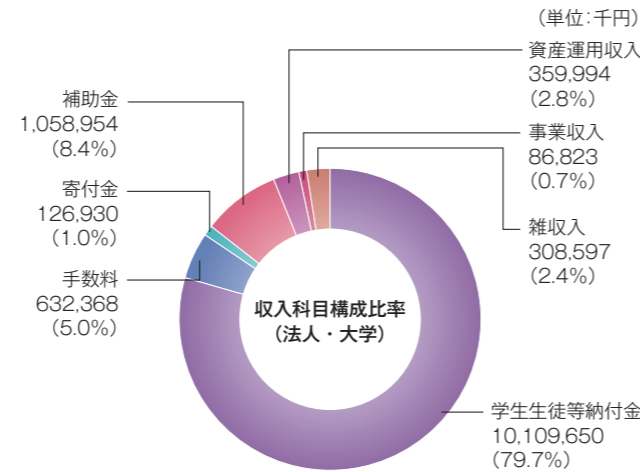


消費収支決算(部門別内訳)・構成比率

法人・大学の部

(単位:千円)

科目	金額	構成比率
学生生徒等納付金	10,109,650	79.7%
手数料	632,368	5.0%
寄付金	126,930	1.0%
補助金	1,058,954	8.4%
資産運用収入	359,994	2.8%
事業収入	86,823	0.7%
雑収入	308,597	2.4%
帰属収入合計	12,683,316	100.0%
基本金組入額	△1,393,200	△11.0%
消費収入の部合計	11,290,116	89.0%
人件費	7,186,304	56.6%
教育研究経費	4,406,129	34.7%
管理経費	798,703	6.3%
借入金等利息	1,520	0.0%
資産処分差額	200,488	1.6%
徴収不能引当金繰入額	7,417	0.1%
消費支出の部合計	12,600,561	99.3%
消費収支差額	△1,310,445	

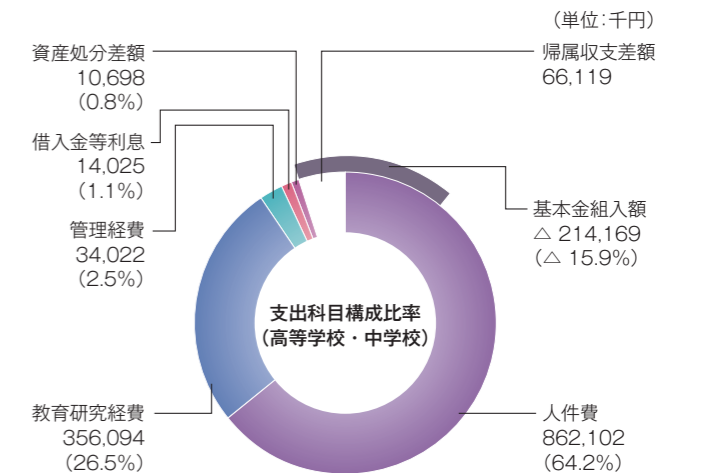
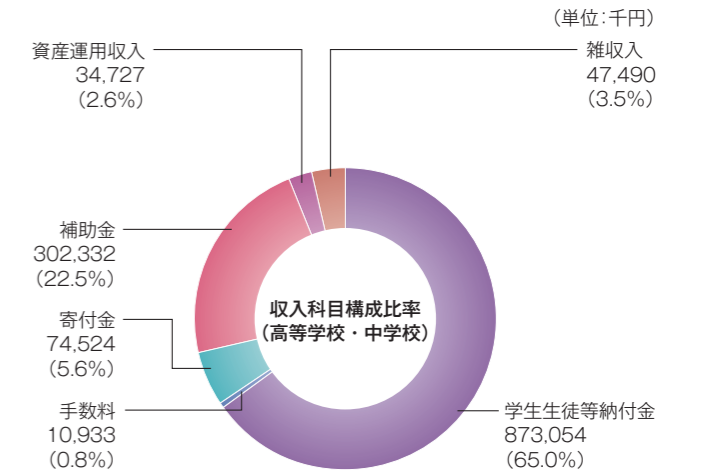


消費収支決算(部門別内訳)・構成比率

高等学校・中学校の部

(単位:千円)

科目	金額	構成比率
学生生徒等納付金	873,054	65.0%
手数料	10,933	0.8%
寄付金	74,524	5.6%
補助金	302,332	22.5%
資産運用収入	34,727	2.6%
雑収入	47,490	3.5%
帰属収入合計	1,343,060	100.0%
基本金組入額	△214,169	△15.9%
消費収入の部合計	1,128,891	84.1%
人件費	862,102	64.2%
教育研究経費	356,094	26.5%
管理経費	34,022	2.5%
借入金等利息	14,025	1.1%
資産処分差額	10,698	0.8%
消費支出の部合計	1,276,941	95.1%
消費収支差額	△148,050	



《用語の説明》

- 資金収支**..... 1年間の教育研究活動等に伴う資金の収入と支出を明らかにし、支払資金の順末を表わすものです。
- 消費収支**..... 企業会計の損益計算の仕組みを引用し、消費収入(収益)と消費支出(費用)の内容と均衡の状態を明らかにしようとするものです。具体的には、「帰属収入」から「基本金組入額」を差し引いた「消費収入」を、当年度消費する資産及び用役の対価としての「消費支出」と対比し、収支の均衡を判断します。
- 帰属収入**..... 資金収支計算書の収入の部の「学生生徒等納付金収入」、「手数料収入」、「寄付金収入」、「補助金収入」、「資産運用収入」、「事業収入」、「雑収入」に現物寄付を加えたもので、負債とならない正味の収入をいいます(外部からの借入金のように学校法人の負債となる収入は含まれません)。
- 基本金組入額**..... 基本金は学校法人が教育・研究を継続的に維持向上させていくために必要な校地・校舎、機械器具、図書等を取得した金額(第1号基本金)、校地・校舎等を取得するために年次的・段階的に積み立てる資金(第2号基本金)、さらには教育・研究を維持充実するための積立(第3号基本金)及び恒常的に保持すべき資金として文部科学大臣の定める額の確保のために帰属収入からあてられる金額(第4号基本金)です。
- 消費収入**..... 帰属収入から基本金組入額を差し引いた残りの収入で消費支出にあてられるものです。
- 消費支出**..... 資金収支計算書の支出の部の「人件費支出(退職金支出を除き、退職給与引当金繰入額・退職金を加える)」、「教育研究経費支出・管理経費支出(減価償却額を加える)」、「借入金等利息支出」に消費支出のみの項目である「資産処分差額」、「徴収不能引当金繰入額」を加えたものです。
- 帰属収支差額**..... 帰属収入と消費支出との差です。
- 消費収支差額**..... 消費収入と消費支出との差です。

主な施設・設備の整備状況(学園全体)

平成22年度に行った主な工事は以下のとおりです。

工事名称	対象施設	概要
3号館外壁改修工事	大学 3号館	建築基準法に基づき、竣工後10年を経過した建物の外壁タイルの打診及び補修を実施。併せて窓ガラスの複層化を行い、文部科学省の補助金を申請。
防災センター新築工事	大学 防災センター	岡本キャンパスの防災力・セキュリティを高めるため、キャンパス中央に防災センター(延床面積232.66㎡)を建設。
六甲アイランド部室棟新築工事	大学 六甲アイランド部室棟	学園創立90周年記念募金事業の一つである六甲アイランド総合体育施設整備事業の一環として同施設南敷地に部室棟(延床面積716.40㎡ 愛称「Ship3」)を建設。
中央監視盤・防災盤更新工事	大学 岡本キャンパス	防災センターの建設に合わせ、老朽化した中央監視盤、防災盤の更新を実施。講義室のきめ細かな温度管理により、省エネルギーにつなげる他、防犯カメラの映像、非常押しボタンの警報などの一元管理を実現。
三木記念体育館空調整備工事	大学 三木記念体育館	熱中症防止のため、三木記念体育館に空調設備を設置。正課活動及び課外活動における快適な競技環境を実現。
7号館・17号館非常押しボタン設置工事	大学 7号館・17号館	実験、研究環境のセキュリティを確保するため、実験室等に非常押しボタンを設置。
14号館・7号館改修工事	大学 14号館・7号館	理工学部再編に伴い、14号館に生物学科、7号館に物理学科、機能分子化学科、地学研究室を集中移転し、新しい教育コンセプトを実現できる環境を整備。
1号館・2号館エントランス自動ドア化工事	大学 1号館・2号館	キャンパスバリアフリー化の取組として、各建物エントランスの自動ドア化を継続的に実施。
構内防犯カメラ設置工事	大学 岡本キャンパス	キャンパスセキュリティ強化の一環として、不審者の入構に対する抑止効果を目的に主たる門に防犯カメラを設置。
体育館自火報受信機更新工事	高等学校・中学校 体育館	老朽化した体育館の自動火災報知機受信機を更新。
大会議室AV化工事	高等学校・中学校 校舎	教室及び諸施設AV化の一環として大会議室にAV設備を設置、補助金を申請。
屋上防水工事	高等学校・中学校 校舎	劣化した高校棟の屋上防水を更新。
タイルカーペット貼り替え工事	高等学校・中学校 校舎	校舎G階廊下のタイルカーペットを更新。

Ⅰ専任教職員数(平成22年5月1日現在)

大学・大学院・センター・研究所

	文 学 部	理 工 学 部	経 済 学 部	法 学 部	経 営 学 部	知 能 情 報 学 部	創 造 マ ネ ジ メ ン ト 学 部	フ ロ ン テ ィ ア サ イ エ ン ス 学 部	ス ポ ー ツ 健 康 科 学 教 育 研 究 セ ン タ ー	セ ン タ ー 国 際 言 語 文 化	研 究 所 E B A 高 等 教 育	情 報 教 育 研 究 セ ン タ ー	国 際 交 流 セ ン タ ー	教 職 教 育 セ ン タ ー	研 究 所 先 端 生 命 工 学	法 科 大 学 院	会 計 大 学 院	学 生 相 談 室	合 計
教 授	40	20	17	14	22	9	7	9	4	6	2	1	0	3	0	12	9	1	176
准 教 授	10	12	8	8	3	7	2	3	2	6	0	0	1	0	0	6	0	0	68
講 師	2	7	0	1	0	3	11	3	1	9	0	1	0	0	1	0	0	0	39
助 教	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
合 計	52	39	25	23	25	19	20	15	7	21	2	2	1	3	2	18	9	1	284

※特定任期教員、実務家教員を含む。

高等学校・中学校

教諭	契約	養護教諭	司書教諭	合計
50	4	1	1	56

職員

専任	嘱託	契約	合計
153	43	18	214

Ⅰ学生・生徒数(平成22年5月1日現在)

大学

学部	入学定員	編入定員	収容定員	実員	備考
文 学 部	400	10	1,620	1,890	
理 工 学 部	155	—	840	1,094	平成20年度定員変更(335名→195名) 平成21年度定員変更(195名→155名)
経 済 学 部	350	—	1,400	1,713	うち、EBA総合コース45名
法 学 部	350	—	1,400	1,719	
経 営 学 部	345	—	1,380	1,693	うち、EBA総合コース29名
知 能 情 報 学 部	120	—	360	449	平成20年度設置
マ ネ ジ メ ン ト 創 造 学 部	180	—	360	393	平成21年度設置
フ ロ ン テ ィ ア サ イ エ ン ス 学 部	35	—	70	78	平成21年度設置
合 計	1,935	10	7,430	9,029	

高等学校・中学校

学校	入学定員	収容定員	実員	備考
高等学校	200	600	585	平成21年度定員変更 (215名→200名)
中学校	175	525	549	

大学院

研究科	課程	入学定員	収容定員	実員	課程	入学定員	収容定員	実員	備考
人文科学研究科	修士	26	52	38	博士後期	10	30	17	
自然科学研究科	修士	35	70	103	博士後期	8	24	7	
社会科学研究科	修士	20	40	15	博士後期	3	9	4	
フロンティアサイエンス研究科	修士	5	10	29	博士後期	1	2	3	平成21年度設置
合 計		86	172	185		22	65	31	

専門職大学院

研究科	入学定員	収容定員	実員	備考
法 学 研 究 科	50	170	132	平成22年度 定員変更(60名→50名)
ビ ジ ネ ス 研 究 科	30	60	65	
合 計	80	230	197	

Ⅰ卒業生累計数(平成23年3月31日現在)

7年制高等学校	871	学部	88,180
新制高等学校	10,779	大学院(修士)	2,000
		大学院(博士)	77
		専門職大学院	405

Ⅰ事務組織図(平成23年3月31日現在)

